

製品名: DREAM (リン酸化 Ser63) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04564**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	29kDa

抗原情報

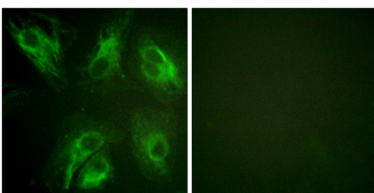
遺伝子名	KCNIP3
別名	KCNIP3; CSEN; DREAM; KCHIP3; Calsenilin; A-type potassium channel modulatory protein 3; DRE-antagonist modulator; DREAM; Kv channel-interacting protein 3; KCHIP3
遺伝子 ID	30818.0
SwissProt ID	Q9Y2W7
免疫原	抗血清は、ヒトカルセニリン/KCNIP3 の Ser63 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 29-78

背景

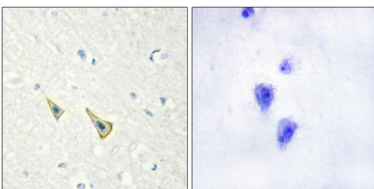
この遺伝子は、EFハンドスーパーファミリーのリカバリンブランチに属する、電位依存性カリウム (Kv) チャネル相互作用タンパク質ファミリーのメンバーをコードしています。このファミリーのメンバーは、EFハンド様ドメインを含む小さなカルシウム結合タンパク質です。これらは、細胞内カルシウムの変化に応答して A 型電流、ひいてはニューロンの興奮性を制御すると考えられる、ネイティブ Kv4 チャネル複合体の不可欠なサブユニット構成要素です。コードされているタンパク質は、カルシウム制御性転写抑制因子としても機能し、プレセニリンと相互作用します。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: PDYN および FOS を含む遺伝子の DRE エlement に結合するカルシウム依存性転写抑制因子。DNA への親和性は、カルシウムに結合すると低下し、マグネシウムに結合すると増強されます。痛覚に関与していると考えられる。機能: PSEN2 のタンパク質分解処理およびアポトーシスの調節に関与する可能性がある。PSEN2 と共に β アミロイド形成の調節に関与する。機能: Kv4/D (Shal) 型電位依存性迅速不活性化 A 型カリウムチャネルの調節サブユニット。カルシウム依存性かつアイソフォーム特異的な様式で、チャンネル密度、不活性化速度、および不活性化からの回復速度を調節すると考えられる。in vitro において、KCND2/Kv4.2 および KCND3/Kv4.3 電流を調節する。KCND2 およびおそらく KCND3 の細胞表面への輸送に関与する。PTM: パルミトイル化。パルミトイル化は細胞膜との会合を強める。PTM: Ser-63 のリン酸化は CASP3 による切断を阻害する。PTM: カスパーゼ 3 によってタンパク質分解的に切断される。類似性: リカバリンファミリーに属します。類似性: 4 つの EF ハンドドメインを含みます。細胞内局在: 膜結合性でもあり、細胞膜と会合しています(類似性による)。小胞体およびゴルジ体と会合している PSEN2 の存在下で、サブユニット: ホモマルチマーとして DNA に結合します。カルシウムと結合することで二量体化が誘導されます。ヘテロマルチマーカリウムチャネルの成分です。KCND2 および KCND3 と相互作用します(類似性による)。PSEN1 および PSEN2 の C 末端、および PSEN2 CTF サブユニットと相互作用します。KCN1 と関連します。組織特異性: 脳で高発現アルツハイマー病の影響を受ける脳皮質領域では発現レベルが上昇しています。

研究分野

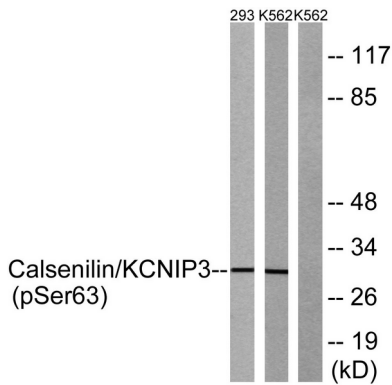
画像データ



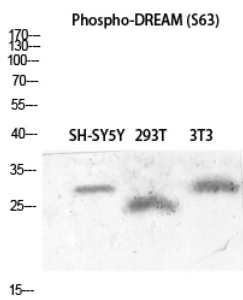
Calsenilin/KCNIP3 (リン酸化 Ser63) 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



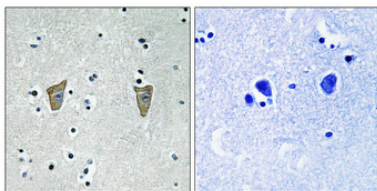
カルセニリン/KCNIP3 (リン酸化 Ser63) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



フォルスコリン 40nM 30分処理した K562 細胞および PMA 125ng/ml 30分処理した 293 細胞のライセートを、カルセニン/KCNIP3 (リン酸化 Ser63) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



SH-SY5Y 293T 3T3 の溶解をリン酸化 DREAM (S63) 抗体を用いてウェスタンブロット分析した。抗体は 1:500 に希釈した。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。